

どうなる？ ハッ場ダム

20 09年政権交代後、前原元国交大臣が中止宣言をし、「予断なき検証」を行うとしたハッ場ダム。9月13日、国交省は「利水・治水両面でハッ場ダムが有利」とする検証結果を発表しました。

森 田知事はこの国の検証結果を「妥当」と判断し、関係6都県知事らとともにダム完成を求める立場を表明しました。

しかし、この検証結果には、次のような問題点が指摘されています。

- ①「予断なき検証」をするといいいながらも、ダムを推進してきた国交省自らが検証主体であること。
- ②各利水予定者の過大な水需要予測の見直しを行わず、そのまま認めること
- ③科学的検証なくダムの治水効果を2.6倍にし、コスト高の代替案と比較していること。

この検証は、ハッ場ダム推進ありきの結論を出すための「アリバイづくり」に他なりません。

9 月24日、「ハッ場ダムを考える1都5県議会議員の会」メンバーで、大規模な土砂災害のあったダム建設予定地を視察。地質学者から「移転代替地は崩落の危険性がある」と指摘されました。ダム予定地は浅間山の火山ハザードマップでも危険地帯とされているところです。

市民ネット会派から意見書提出

そこで、9月県議会に「ハッ場ダム事業の検証作業の抜本的なやり直しを求める意見書」を提出しました。

議 会最終日、民主党、共産党から賛同を得たものの、残念ながら不採択。

一方、自民党から出された「ハッ場ダム建設事業の早期完成を求める意見書」は、公明党、みんなの党他の賛成多数で採択となりました。

まだ、検証は終わっていない！

民 主党内でハッ場ダム再検証プロジェクトが発足し、前田国交大臣も「大震災を踏まえ、検討する」と言明。また、今月26日には70人を超える河川工学や地質環境学の学者が、国に公開の場で再検証を求める声明を出しました。

総 合企画水道常任委員会で、私は委員の一人として毎回、ハッ場ダムは不要であるとの立場で発言しています。この先、さらに事業費が増額し、工期延長も明らかですが、県は一貫して国任せの姿勢です。引き続きハッ場ダム事業の完全中止と現地再建支援に向けて全力投球します。



やっぱり脱・原発を！

被災児童・生徒の受け入れ状況

(9/1現在、千葉県内)

小学校	419人
中学校	167人
県立高校	102人
特別支援学校	37人
合計	725人

住み慣れた土地を離れ、千葉で学ぶ子どもたち。

福島原発事故による避難者がほとんどです。

ここが問題！
9月補正予算



子宮頸がん等ワクチン接種に23億2千万円

子宮頸がんワクチンの接種対象者は中学1年から高校1年生の女子。6カ月間に筋肉注射を3回も打たれ、心身両面での苦痛を強いられる。

しかし、ワクチンは万能ではないため、検診も同時に受けなければならない。このワクチンは開発から日が浅いため、安全性の検証も不十分で失神などの重篤な副反応が100例以上報告されている。

巨額の税金を投入し、接種促進をする背景に何かあるのか？ 20%台と低い子宮がん検診率の向上にこそ、力を入れるべきです。

